

暖房器具の安全な取扱いについて

本格的な冬の到来に備え、暖房器具のお手入れなどは方
全でしょうか。

近ごろ、便利で安全性の高い暖房器具が増えていますが、
それでも毎年暖房器具が原因の火災が発生しています。

その中で最も多く火災が発生しているのが、石油ストー
ブです。移動が簡単で操作も難しくなく、経済性も高いこ
とから、一般家庭や作業場などで広く使われています。

①石油ストーブによる主な事故事例をみてみると
石油ストーブの上や付近で乾かしていた洗濯物がストー
ブに落下し、火災になった。

②カートリッジタンクのふたを確実に締めずにセツトした
ため、漏れた灯油に着火した。

③消火しないで寝てしまったため、布団などが接触したり、
周囲に置いていた雑誌などの可燃物が過熱し発火した。

④火を消さずに灯油タンクに給油し、あふれた灯油に着火
した。

⑤間違つてガソリンを給油したため火災になった。
以上的事例をみてみると、日ごろの取扱いで慣れや油断
が生じ、火災が発生するケースが多いようです。

これから日に日に気温が下がり、暖房器具を使う頻度が
高くなりますが、火を取り扱っている間は常に火災が起き
る可能性があることを忘れないようにしましょう。



ストーブ火災防止対策!

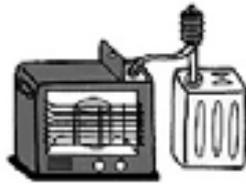
- ストーブの近くに紙、衣類など燃えやすいものを置かない。
- カーテンなどの近くに置かない。
- ストーブのそばで遊ばない。
- ストーブの近くでヘアスプレーや殺虫剤など引火の危険があるものは使用しない。



- ストーブの上方に洗濯物を干さない。
- 石油ストーブに灯油以外のものを給油しない。



- 給油中は必ず火を消す。
- 自動消火装置付きを使用する。



- 火をつけたままストーブを動かさない。
- 外出するときや寝るときには、必ず消火する。

製品に添付の取扱説明書や器具本体に表示された注意事項を守り、十分に注意してご使用ください。

消防士知識 消防士って? 階級のはなし



「消防士」という言葉を、新聞やテレビなどでよく目にしますが、消防職員はみんな消防士なのでしょうか。答えはノーです。では火災のとき、消火活動をするのが消防士で、病気や怪我のとき、救急活動をするのが救命士? それも違うのです。

実は消防士というのは、我々消防職員の一つの階級なのです。消防における消火活動や救急活動は、何名か集まった「小隊」で行います。それを指揮統率するには、隊長の命令を絶対なものにする必要があります。

そのための決め事が階級なのです。現在、10階級あり、胸についている階級章のデザインとともに、次のように定められています。「消防士」というのは、一番下の階級なのです。

	消防総監
	消防監
	消防正監
	消防監
	消防司令長
	消防司令補
	消防士長
	消防副士長
	消防士